



しんぎょく

全



許
母
之
書

音吹ちす風おとろく〜〜〜目くらり
那のそとへ〜〜〜まぬく〜〜〜中の
廣も〜〜〜けり〜〜〜路も〜〜〜た〜
更け〜〜〜小坂の市ぬるほの路おの〜
ねと〜〜〜ちか〜〜〜ゆ〜〜〜の〜〜〜路〜
身と〜〜〜あつ〜〜〜園居る中ふ一人乃屋
や、路も〜〜〜けり〜〜〜あ〜〜〜る〜〜〜り〜
九路のち〜〜〜路〜〜〜けり〜〜〜路〜〜〜る〜
〜〜〜路〜〜〜る〜

多きものゝ人ものゝのたふちり
 一のたふちり合のたふちり
 夜のたふちり合のたふちり
 人やふちり合のたふちり
 一のたふちり合のたふちり

昭和のたふちり — 藤八

藤八



藤八画

鐘鼓唱歌

惟然

りつゝ思ふ〜 楳のふもありまゆまを〜や
 之教の楳もまむむ〜 悲〜と素木の杖もさへは絶
 〜〜 乙言や楳木の音もさへりぬ〜 友と
 木々の花の月もさへ〜 昔の杖もさへりぬ中
 乙言や〜 乙言や〜 乙言や〜
 乙言の楳もさへりぬ〜 乙言の楳もさへりぬ
 めら〜 乙言〜 乙言〜 乙言〜

古也木楳もさへりぬの音清い〜 乙言の楳もさへりぬ
 乙言や〜 乙言や〜 乙言や〜 乙言や〜
 や〜 乙言や〜 乙言や〜 乙言や〜
 乙言の楳もさへりぬ〜 乙言の楳もさへりぬ
 乙言の楳もさへりぬ〜 乙言の楳もさへりぬ
 乙言の楳もさへりぬ〜 乙言の楳もさへりぬ
 乙言の楳もさへりぬ〜 乙言の楳もさへりぬ

け文を風見合得と云外〜 惟然楳木を言ふ〜 乙
 古木の白と云外〜 乙言の音もさへりぬ〜

あつらひも御あつらひ曲りぬらまはし
そ月仲と利と或は口よりおのけは御ちか
海の名りしけしゆらぬもあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら

あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら
あつらひあつらひあつらひあつらひあつら

長束の家よりあつらひあつらひあつらひ

あつらひあつらひあつらひあつらひあつら

細雪切花春雪ふししきく御抄 翁

草庵くぬふふふくくくくくくく 湖春

ふふくくくくくくくくくくくく 其角

くくくくくくくくくくくくくく 嵐雪

一月を我れゆふくくくくくくく 丈草

くくくくくくくくくくくくくく 玄来

入の門もふくくくくくくくくく 許六

鼻息の夜を何れくくくくくく 孫菊

御多くくくくくくくくくくくく 支彦

ふくくくくくくくくくくくくく 露川

りくくくくくくくくくくくくく 木枝

投やくくくくくくくくくくくく 野坡

高勢を修むくくくくくくくく 正彦

瓢箪のくくくくくくくくくく 桃蹊

御くくくくくくくくくくくくく 酒堂

幽雲よ水音やこころしうお 死 智月

油鼓ありれを顔も似ぬりのり 乙州

接もよまの若やしらこころ 千那

隔ハを何しおれ油こころ 本尋

油こころお細女の夜とまん 殆通

世の中をこねるをし油お 尚白

おもしちやおめはこころし 曲筆

ほ入まこころをさあ油鼓 萬子

日暮や油おるをましく思 師人

油こころをさつらしあまの標 悠風

根のしらべを道し油おこ 野童

こころをさし湯屋のこころ時あり 風國

慰り齋ゆりまらんちちお 舎羅

油こころかき物言をしゆりる 馬寛

油こころをさしあま危病をわく

ちちおありしはちをいおゆれ 野徑

御あしと石高き道と証し申す
 長油の勢ゆるりし御あし
 根と道よりしはりし御あし
 阪河やあしにりし御あし
 朔日八粒ありし御あし
 豆腐引きとらし御あし
 公事申しとらし御あし
 過ぎ申し御あし
 丹那

御あしと石高き道と証し申す
 長油の勢ゆるりし御あし
 根と道よりしはりし御あし
 阪河やあしにりし御あし
 朔日八粒ありし御あし
 豆腐引きとらし御あし
 公事申しとらし御あし
 過ぎ申し御あし
 丹那

ふきすく外の言はんや御波 吾仲

夜くりし夜中ありくく御うき 反朱

粥腹も志をくもあし御波 乙由

河原のそしつ流るるそちお 曾北

御お一夜夢見たり物しり 山澤

罪よなるるあ辰の門や御中り 子遠

ふのゆら都乃りあやしりりり 林江

雪の庭くくは雪の御うき 里江

明くも信由のつや御うき 巴静

あしりりり守人き守り御うき 温故

多佛乃り百者りりりちち 可笑

屋うき水も雲波の人こしちち 松露

くちりりりりりりりりちち 鬼士

牛もりりりりりりりりちち 希因

郭そのすけりりりりりりちち 物怒

風りりりりりりりりりりちち 曾史

白く〜世に強いの〜〜〜〜〜
柳居

龍平り〜世に強いの〜〜〜〜〜
百川

極楽の酒をのり〜〜〜〜〜
菊秋

〜〜〜〜〜
巴人

〜〜〜〜〜
露水

〜〜〜〜〜
春波

海と山と雲とのあはれを思ふは春の思ふ

知り〜〜〜〜〜
原松

陽〜〜〜〜〜
深風

お〜〜〜〜〜
木兎

〜〜〜〜〜
馬明

〜〜〜〜〜
麻文

〜〜〜〜〜
清く

〜〜〜〜〜
竹首

〜〜〜〜〜
乙若

〜〜〜〜〜
可風

市中やりのちもゆゝに 御打 文素
 高塚をたつり所 くらゝくらゝ 杜菱
 髪ゆめくもるもあはれと 御打 貫古
 祖師の渡をゆつゝ くらゝくらゝ 鳥醉
 交りぬけ付り くらゝ河をくらゝくらゝ 菊二
 大津路此間眼の くらゝん 津一 波 不知作者

當時同詠

冬の日と冬くまをくらゝ 御打 桐雨
 雨のりらと茶室 くらゝ御打 東巴
 髪をくらゝり 佛よをくらゝ くらゝくらゝ 二日坊
 粥膳のゆき くらゝ御打 入徳
 只中り同 くらゝくらゝ御打 栞良
 正月とくらゝくらゝ くらゝ御打 丸夕

月の夜も門を敲くし御多しき 尾張 也有

はらもたれ兼其名のまぐさしき 白尾

病りしとおのり門の戸しき 鳥甲指

大伴画しき方しき 八尾

御多しきそのむねしき 廿二

御多しき 杜鳥

しき 周牛

夕都のうらむ 雨葉

瘦もあはれ 乙児

懐ら 金尾

院乃 梅尾

か 鳥西

お 孤山

との 梧羽

よ 得負

入 鳥秋

秋夜のうひしき聲やまらお

東都

秋風

りの河舟さしりてそとそとそと

門夢

象しりあしりてそとそとそと

卷阿

月影よそとそとそとそと

鳥明

月影よそとそとそとそと

止後

月影よそとそとそとそと

義坊

月影よそとそとそとそと

蓼太

月影よそとそとそとそと

柳儿

物言の中よすしりりしり

上後

雨林

是と少さのしりりしりしり

下後

弄船

是の舟とそとそとそとそと

多後

三日坊

多の舟とそとそとそとそと

隆更

里桂

多の舟とそとそとそとそと

丈是

多の舟とそとそとそとそと

露香

多の舟とそとそとそとそと

出ぬ

荷竹

多の舟とそとそとそとそと

惟中

御打夜 〱 巾と起 〱 〱 〱

如賀元 志園

嗚り由 嗚り由 嗚り由 〱 〱 〱 〱 〱

琴水

いっせゝん 御師のふり 〱 〱 〱 〱 〱

羊化坊

御鼓控 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

既白

新 新 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

巨井

ゆ 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

見風

音 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

幾登 見権

何 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

御 敲下

糸のせ 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

柳波

何 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

玉寄

〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

御 春亀

御鼓 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

震舟

水 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

琴大

ま 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

右見 百和

あ 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

深鼓

夕 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

梨般

三味線の音も川もや静か

鴛 寒鳥

静かなる朝日も雲を抜く

伴山

角の音も静か

木舟

舟中も静か

母屋 溜杵

籠もくはのむも静か

香友

降ぬる雨も静か

百尾

更なる雨も静か

馬吹

氷踏むも静か

嵩

静かなる風

風草

静かなる老の心

橋 宝島

静かなる園

五橋

静かなる舟

布舟

静かなる人

写竹

静かなる道

橋 白菰

静かなる音

松竹

静かなる暮

橋 暮雨

るる六路のそとやしししししし

季林

登り登り此のちや油くく

備後

倚松

は子よふ鬼しししししし

我晴

ふはふは福言わししししし

子孫

風律

島系乃海はるるししししし

芦路

しししししししししししし

周防

礎洞

音しししししししししし

寺理

順修しししししししししし

壺外

宵の葉乃ちくしししししし

豊前

抱村

多波乃あはれしししししし

美里

多由乃乃しししししししし

世孫

逸之

能事乃とてししししししし

菊里

物能乃二人連なりしししし

有哉

か海乃乃しししししししし

能事

風指

人ししししししししししし

杏飛

しししししししししししし

能事

重印

賢路の世もあしり御多き

肥毛 枕山

己の喜きひしりもやもや御

肥後 苔峨

おしりもあしりもあしり御

肥後 父曉

市人のしりもあしりもあしり

日向 涸水

夕アしりもあしりもあしり

後 春翹

福しりもあしりもあしり

壱岐 周雨

登つんばいしりもあしり御

杜帆

体おしりもあしりもあしり

一峰

いそりもあしりもあしり御

赤 百曲

声しりもあしりもあしり

伊豫 香柅

何のしりもあしりもあしり

東里

夜明しりもあしりもあしり

肥後 風信

おきしりもあしりもあしり

大和 玄糸

竹しりもあしりもあしり

浪華 寸馬

歸鳥のしりもあしりもあしり

高回

御しりもあしりもあしり

春塘

周りれ 翠もやいん 流りて

重軍

ト士

言のりて 夜の言のりて

巨洲

下るもら 伊をまら 流りて

應澄

東宮のまら 流りて

魯江

後入のりて

智凡

吾もら 流りて

青奇

くもら 流りて

松峯

目もら 流りて

紀風

水鶴もら 流りて

龜石

弟もら 流りて

景二

羅もら 流りて

荷淨

櫻もら 流りて

春雷

折柳もら 流りて

華洛
子鳳

百もら 流りて

東亮

衣もら 流りて

文下

男もら 流りて

安里

ふふ多のあ〜物あり御多〜

岸江

遠のめ〜とある〜し〜御設

素院

御お持〜の〜御つ〜り

吹風

華堂〜も〜御お

可因

也〜〜御〜

室南

比物〜〜御〜

鶴之

御お持〜御〜

巴陵

目〜御〜

似水

種も〜御〜

百長

悟〜御〜

用舟

顔〜御〜

龍風

〜御〜

可磨

種〜御〜

七吸

冬枯〜御〜

紅羽

寝〜御〜

深木

〜御〜

除尾

戸々鳴く楊子くくや御あつさ 啞瓜

二人きりあつさくつさくつさくつさ 吾東

涙のしや 師のまのちと筆筆んま 只言

河のたうま唇の田かうくくくく 麥雨

海世とくつさくつさくつさ 丘禽

さひくくくつさくつさくつさ 秋鳥

ありとくつさくつさくつさ 洞六

おろくくくつさくつさくつさ 吾朝

きやめくつさくつさくつさ 琴堂

おろくハ佛りりりりりりりりりり 九湖

梅木の次節を席や 御くくく 一福

ありけきも園くつさくつさくつさ 吾之

御くくくくくくくくくくく 吾之

雛卒の園くくくくくくく 諸九

くくくくくくくくくくくく 太初

世とくくくく御くくくくくく 百歳

東都

偶興

京中ふこの淋しきや御多き

蝶夢

障ありしきや。羽是乃新

父下

富勢を名に帯國と引しりて

生完

おもあはまひ楊としりり

用舟

尾浦りや日の秋あまはるし

素流

控し。園もけ。暑さりし

魯江

后子の羊もまはれと悔みまはり

程風

香のうらうけし。ゆらや

巴陵

夜道うらた我新法所つる

吾東

夜羊一撞山より喜とまひ

夏

管々たむる子鶴の信り上

下

こりしきや。酒のつら

完

寺子たしきや。法乃信りて

舟

月おちしきや。乃ありひ

風

初日のさうり西の空を角田川
ふれ〜空をさうり、新原
ま〜空をせしけけをさうり
大粒をけし〜の云々
胡葱と紫の〜白の〜か〜
甲子年をぬいす〜
業は石〜と水乃也
〜日〜牛の皮を
舟 完 下 差 東 陵 流 江

湯杖り〜空〜美〜
伊豫乃人〜和〜
ふあり〜
草の鶴をぬい〜
〜
〜
片破の白〜
〜
舟 完 下 差 東 陵 流 江

川よあつて能因寺と頼つて
都をのぞきしつら頼つても
あしやうとておぼえりし世なる柳の糸
際しとてしやう柳の糸
海をのぞきしつら頼つても
あしやうとておぼえりし世なる柳の糸

下 東 後 比 江 頼

春風亭

惠十

